

12~3月の管理

○防寒について

1年を通して最も気温が低い時期です。尼崎では特別な防寒をしなくても大きな問題はありませんが、一時的な寒波による被害を抑えるためには、マルチや被覆資材を使います。

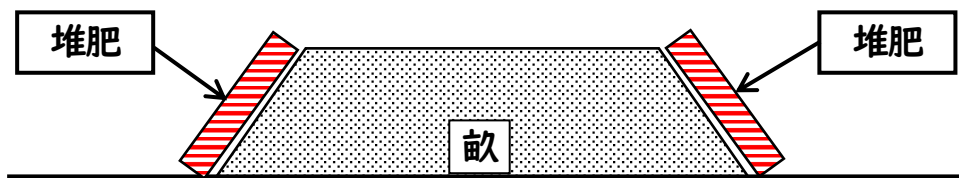
1. マルチ (マルチとは土の表面をいろいろな農業用資材で覆うこと)

プラスチックフィルム (広く使われている資材)

・肥料の流亡や雨による土はねを抑える効果がある。

種類	効果
黒色フィルム	地温の保温と雑草防除に効果がある
透明フィルム	地温上昇効果は高い (雑草が生えやすい)
片面が黒で他の面が白や銀色のフィルム	銀色の面を上にとアブラムシよけになる

堆肥でマルチをする場合は、畝の上部だけではなく、肩の部分も施すと保温効果が高まります。



2. ベたかけ資材 (野菜に直接にかける通気性のある資材)

種類	特徴等
不織布	軽くて通気性が優れている、(隙間が多いので)保温性が高い。
寒冷紗	繊維を織ったもの 目の粗さが細かいほど防寒効果は高い

いずれも白色の製品の光透過率は80-90%あり、植物の成長に十分な光量は確保される。

3. トンネル栽培用プラスチックフィルム

保温性の点で不織布や寒冷紗よりも優れます

種類	特徴
農ビ	保温性が高く扱いが容易である。摩擦に強い、シワやタルミが できにくい (栽培農家では最も広く使われています)
農ポリ	農ビより赤外線透過率が高く保温性能は劣る。 軽量で扱いやすい。市民農園でのトンネル用に適している
PO	農ビよりも軽く耐候性が高く破れが広がりにくい。 一方、摩擦に弱く硬い。
	厚みは、0.05mm から 0.2mm くらいまであり、 <u>厚い方が保温性 や耐久性は高い</u>

トンネル被膜資材の特性

資材の種類	保温性	耐候性	価格
農ビ	高	中	高
農ポリ	高～中	低	中
PO	中	高	中～高
寒冷紗	低	高	低

○追肥

タマネギ: 1月下旬と2月下旬 (50g/m²)

量を控えめに、特に2月下旬は多過ぎないように注意。

※追肥後、雨が長く降らないようであれば、灌水して追肥が効くようにする。

エンドウ: 3月上旬 (25g/m²)

化成肥料(出来ればリン酸やカリの多い肥料)を株元に施し土寄せする。

ソラマメ: 開花時と肥大時の2回 (25g/m²)

茎の中まで土寄せ、追肥後除草と中耕

開花結実期は、水を切らさないように気を付け晴天続きの時は灌水する。

早春まきの野菜

① にんじん

春栽培が可能な西洋にんじんの品種を2～3月に播種し、5～6月に収穫。

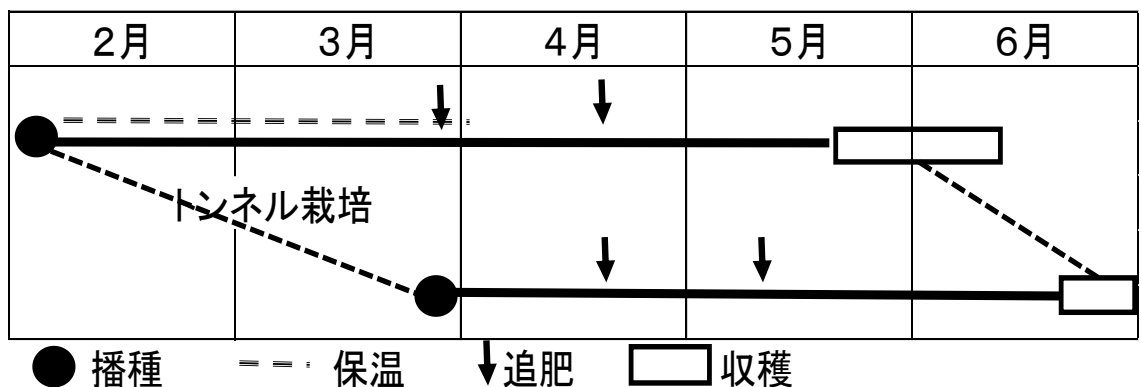
必ず2～3月に播種可能な品種を使います。(種子袋の播種時期を確認すること)

早まきするほど、根が十分に肥大しないうちにとう立ちする危険性が高くなるので無理な早播きは慎みます。**阪神地域では3月以降の播種が無難**です。

施肥量は、基肥として苦土石灰 100g/m²、化成肥料(8-8-8) 100g/m²程度をよくすき込みます。

- ・播種後:**不織布などで地面を覆い地温の確保**に努めます
- ・播種から発芽まで:**土壌を乾燥させない**(秋まきと同じ)
- ・4月上旬まで:トンネルで栽培します
- ・本葉3枚ころと7枚ころ:化成肥料を70g/m²程度を追肥します
- ・4月以降:雑草の防除にも努めます。

春まきニンジンの栽培暦



② キャベツ

キャベツもにんじんと同じく、春まき栽培ができる品種を選びます。

播種期：低温のため温床で育苗し、苗の生育を促します

3月中旬以降にホームセンターに苗を買うのが簡単です。

基肥：苦土石灰-100g/m²、化成肥料(8-8-8)-150g/m²をすき込みます

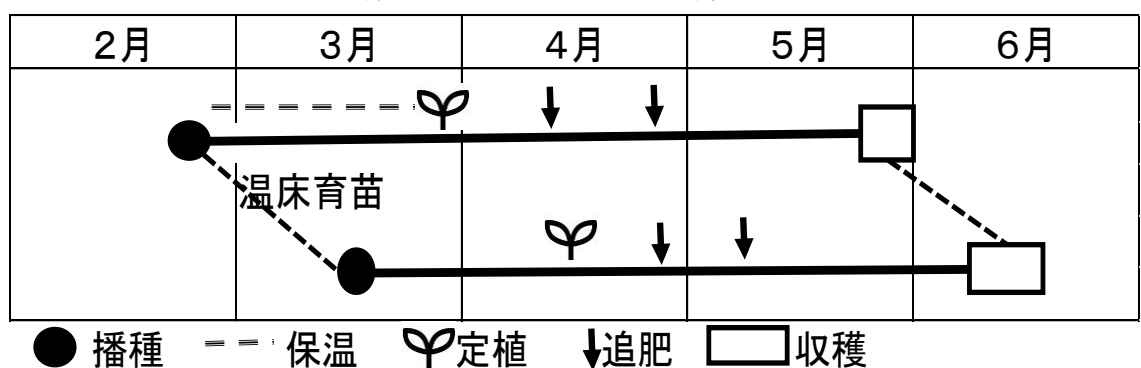
定植：株間 40~45cm

追肥：定植後半月後頃と芯葉が立ち始めた頃に化成肥料(8-8-8)を70g/m²程度施与。

収穫期：5月下旬から6月にかけて

※4月中旬以降、アオムシの被害を受けやすいので定期的に薬剤を散布するか、早期に捕殺します。防虫ネットの被覆も有効です。

春まきキャベツの栽培暦



③ リーフレタス

3月上旬頃からホームセンターに苗が並び始めるのでそれを使うのが簡単です。

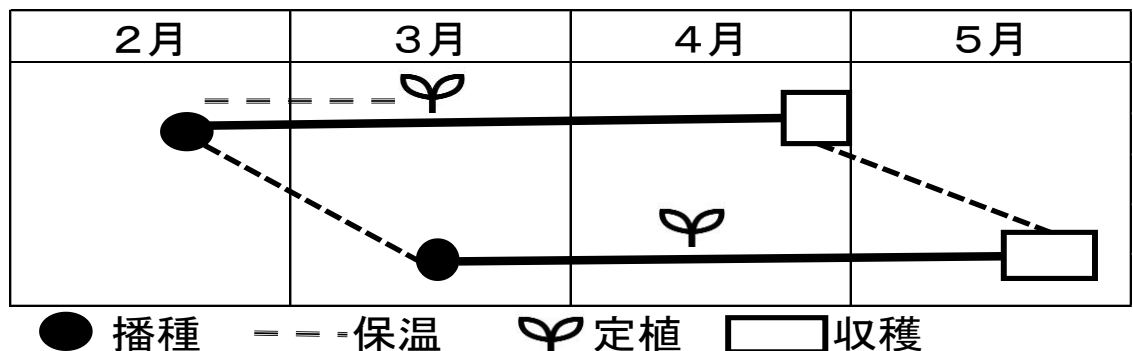
栽培期間が短いので基肥主体の施肥とし

苦土石灰 100g/m²、化成肥料(8-8-8) 120g/m²程度

途中で生長をストップさせないように気を付けます。

株間 30cm 程度。苗を植えてから1か月ほどで収穫できます。

リーフレタスの栽培暦



ジャガイモの栽培について

植え付け	2月中旬から
基肥	化成肥料(8-8-8)を100g/m ² 、堆肥を1-2kg/m ² 施用して、良くすき込む。 ※ そうか病 の発生を抑えるために石灰類は与えないようにします。
芽出し	霜の当たらない日当たりの良い場所に数日置いておいて、芽を出してから植えると、発芽が揃います。
切り分け	種いもを 1片が50g 程度の重さになるように、かつそれぞれのいもに 芽が2つ以上 あるように包丁で切り分けます。 切り分けて直ぐに植える時は切り口に石灰資材をまぶしてから植えます。或いは、切り分けて1日以上放置し、切り口が乾いてから植えても構いません。
植え付け深さ	10cm程度
植え付け間隔	30-40cm
間引き	茎長が15cm程度になった時に1株2本程度の元気の良い芽を残し、他の芽は株の周囲を手で押さえながら抜き取ります。 1株に化成肥料を1/2つかみ程度追肥します。 株元に土寄せをします。

ジャガイモのイモは茎が肥厚したもので、光が当たると緑色を帯びるので注意します。緑色を帯びた部分には**ソラニン**という天然の有毒物質が集積していることが多く、皮を厚くむいてから調理しなければなりません。
土寄せは茎をしっかりと立たせる他に、新しくできるイモに光を当てないようにする管理作業です。

簡単な施肥量の計り方

堆肥	スコップ1杯	約2kg
苦土石灰	1握り	約40g
化成肥料	1握り	約30g
(その他)	1つまみ	約2g